

巻頭言

名古屋大学大学院医学系研究科

ウェルビーイング in アジア

特任助教

里中 綾子

海外研修の経験

2014年は私にとって激動の年となりました。2014年1月より名古屋大学リーディング大学院「ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成プロジェクト」の特任教員に着任したことで一理学療法士からこれまでとは違う世界へ飛び出したような感覚でした。このプログラムは食・健康・環境・初回システム・教育をキーワードとして、国際開発学、医学・保健学、農学および教育学といった4研究科連携の教育によりグローバルリーダーに必要な能力を育成し、アジアのウェルビーイング実現を目指すもので、様々な特別講演や海外研修などが含まれています。大学院生に混じりながら私自身も今まで知らなかった世界に触れることができました。海外渡航の機会も増え、様々な国における医療現場の視察や意見交流を行うことができこれまでよりも格段に広い世界に飛び込めたように思います。渡航先はフィリピン、タイ、オランダおよびアメリカです。この中でフィリピンとタイは学生の引率をしました。この2カ国の皆さんのイメージは発展途上国、医療後進国ではないでしょうか。もちろん衛生面、社会システムなどの問題は山積していますがそのための対策が放置されているわけではなくむしろ積極的に一般市民を巻き込んだ政策が取られています。現在の日本が学ぶべきこともたくさんあることが実際に行ってみて聞いて知りました。一方でオランダやアメリカは学会発表と医療視察を目的とし個人的に渡航しました。高齢者や障がい者のコミュニティをベースとした実際の支援を見る事ができました。これらの海外研修から、「健康」とは単に医療的行為だけではなく人と人のつながりがベースにあることを再確認しました。このような海外での経験を日本に持ち帰り理学療法士としてできることを見直す良いきっかけになったと思います。そしてなにより若い頃、特に学生時代にこのような経験ができる学生がうらやましくもありました。短い研修期間ではありましたが、学生の人としての成長が手に取るように感じられました。自身の専門以外の世界を知ること無駄なことはいはずす。視野を広げることで人間力も磨き上げられることでしょう。